

学校だより 芝っ子

令和6年9月27日
松本市立芝沢小学校



やさしい子をめざそう

～二学期始業式校長講話より抜粋～

2学期の最初に皆さんへお話しするのは『「やさしい子」を目指そう』ということです。

ところで、皆さんは本校の学校教育目標を知っていますか。各教室にも掲示してあるかと思いますが、「学び きたえる やさしい子」です。前半の「学び きたえる」という部分は、「学習や体づくり」といった皆さんにも分かりやすいめあてですね。では「やさしい子」というのはどういうめあてなのでしょう。

先程も話題にしましたが、パリ・オリンピックで、選手の皆さんが競技後のインタビューで必ず口にした言葉という言い回しがあります。それはどんなものだったのでしょうか。

選手の皆さんがよい結果を残せたのは、その選手自身の能力、そこまでの努力、精神力等がその結果の一番の理由だと思います。しかし、どの選手も決まって「このメダルを取れたのは自分のお陰です、私が凄いから取れました」などとは言わずに、「この結果を残せたのは、これまで自分の周りで支えてくれた家族や応援の皆さんのお陰です」などと話しました。今回私もいろいろな選手のインタビューを聞きましたが、ほとんどの選手がそうでした。

例えば、スケートボードで最後の最後で大技を決めて、金メダルを取った堀米雄斗選手は「音楽をかけないで、自分に集中できるようにして、練習してきたことを出そうと思った。自分だけではなく、家族やファンの応援がかぎになった。逆転で優勝を決められて本当にうれしい」と話しました。もちろん、その裏には「謙遜」という気持ちで、皆の前で、自分の力を自慢して誇り高く話すのではなく、少し遠慮をする気持ちもあるかと思います。しかし、話し方を聞いていたり、様子や態度を伺ったりしていると、それだけではなく、本心から周りの人たちへの感謝の気持ちが表れていると私には感じられました。



やはり、めあて通りに結果を残す人、良いパフォーマンスができる人は、皆、自分のことだけを考えて行動しているのではなく、周りの人への感謝の気持ちを忘れずに行動している人です。その人を支える周りの人たちもその人のことを考え、アドバイスしたり、励ましてあげたり、声をかけたりしているんです。これが「やさしさ」の連鎖（つながり）の一つの姿だと私は思いました。

人はどんなに強くても一人では生きられず、周りの人と助け合いながら生きていくことが大切ということを私は、今回のオリンピックを見て改めて感じました。

皆さん、いかがですか。この2学期、学習に生活に、各自のめあてに向かって取り組んでみてください。そして、その時にはこの「やさしい子」を心に置き、行動してみてください。途中で嫌になったり、自分でやろうとしてうまくできなかったりすることもあるでしょう。面倒くさくなって挫折してしまうこともあるかもしれません。けれど、そんなときには、自分一人だけでなく、近くの友達や先生方、家族の皆さんに優しい言葉をかけてもらい、助けてもらいましょう。また、そんな自分にくじけた時こそ、腐らずに周りのみんなにやさしい言葉をかけてあげましょう。そうすると、自分にいつか優しい言葉が返ってきますよ。これが「やさしさ」の連鎖（つながり）です。ぜひ、周りの人々とやさしい心を合わせて、2学期も頑張りましょう。

例えば、明るい挨拶でお互いの気持ちをよくすること。友達に「一緒に遊ぼう」と声かけて 楽しく遊ぶこと。また、6年生の皆さんがこれから取り組む、地域のお年寄りの方の施設や保育園を訪問し、一緒に話したり、遊んだりすることは、お年寄りの皆さんや園の子どもたちに元気を届けることになるでしょう。まずは、学校生活の中で人の役に立つ小さなことを見つけてやってみましょう。そして、続けていきましょう。また、友達のそのような行いに気付いたら、「ありがとう・がんばってるね・うれしいな」などの一声をかけましょう。皆さん一人ひとりの小さな行いは、学校全体では大きな行いとなります。

2学期も、みんなで、もっと明るく、もっと楽しく、もっと安心して過ごすことができる芝沢小学校をつくっていきましょう。